

平成25年度 農作物病虫害
防除対策情報 第1号

平成25年5月9日 秋田県病虫害防除所

りんご黒星病（県北部）、モニリア病（全県） の発生に注意

～ 散布間隔を長引かせないようにし、防除を徹底してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 前年6月の巡回調査では、りんご黒星病の発生量が県北部で多く、県南部では発生が確認されなかった。そのため、県北部での越冬量は多いと推定される（表-1）。
- 2) りんごモニリア病の子のう胞子は、果樹試験場内の子実体の生育状況から県南部では4月中旬には胞子飛散が開始し、4月5半旬以降の降雨で感染があったと推定される（表-2）。また、県北部では子実体の生育が県南部に比べ数日遅れ、4月6半旬以降の降雨で感染があったと推定される。このことから、5月中旬以降に発病してくる可能性が高い。
- 3) りんごの発芽期以降が低温で経過したことから、展葉初期の生育ステージが長引いた。また、降雨日が県北部で18日、県南部で16日と平年より多く、降水量も平年に比べ20.6～21.9mm多かったため、病原菌の感染に最適な条件が長期間続いた（表-3、4）。
- 4) 発芽期以降、降雨日及び風の強い日が多かったことから、4月下旬の防除を実施できなかった事例が見られる。
- 5) 以上のことから、県北部で黒星病、全県的にモニリア病の発生が平年よりも多いと予想されるため、5月中下旬の防除を確実に行う必要がある。

2. 防除対策

- 1) りんご黒星病（県北部）
 - ①開花期前後にEBI剤の2回散布を確実に行う。散布間隔は14日以内とし、これ以上長くしない。
- 2) りんごモニリア病（全県）
 - ①葉ぐされ、実ぐされは見つけ次第摘み取り、焼却または土中に埋却処分する。
 - ②開花前に葉ぐされが多くみられた場合は、病斑拡大防止、分生胞子形成阻止のため、トップジンM水和剤1,000倍を散布する。
 - ③葉ぐされ発生盛期にトップジンM水和剤1,000倍を散布できなかった場合は、実ぐされ防止のため中心花満開期にトップジンM水和剤2,000倍を散布する。
 - ④株ぐされ防止のため、落花直後にアンビルフロアブル1,000倍またはスコア顆粒水和剤3,000倍を散布する。
- 3) 薬剤散布はかけむらのないように丁寧に行い、薬液のかかりにくい部分に対しては手がけで補正散布する。

参考資料

表-1 前年6月の巡回調査におけるりんご黒星病の発生状況

	県北部		県南部	
	発病 葉率(%)	発病 地点率(%)	発病 葉率(%)	発病 地点率(%)
2012	23.3	75.0	0	0
平年	0.6	4.2	0	0
概評	多	多	—	—

表-2 りんごモニリア病子実体の生育状況(果樹試験場内)

調査月日	生育程度別子実体数(個)				
	I型	II型	III型	IV型	V型
4/8	0	—	—	—	—
4/12	1	5	—	—	—
4/15	1	6	1	—	—
4/19	—	11	4	—	—
4/22	—	13	16	6	4
4/25	—	2	3	13	4
4/30	—	—	10	8	11
5/4	—	—	—	2	12

・I型:発芽始 II型:生育期 III型:胞子形成期 IV型:胞子飛散盛期 V型:老熟期
 ・子の胞子はIII型の後半からV型の前半まで飛散する。

表-3 4月11日～5月5日の気象状況

	平均気温(°C)			降水量(mm)			降雨日数(日)	
	2013	平年	差	2013	平年	差	2013	平年
県北部(かづの果樹センター)	6.2	7.8	-1.6	115.5	94.9	20.6	18	11.2
県南部(果樹試験場)	7.9	10.6	-2.7	88.0	66.1	21.9	16	10.5

・気象データは各施設内の観測計による。

表-4 りんごの生育状況

	発芽期(平年差)	展葉期(平年差)
県北部(かづの果樹センター)	4/14 (+2)	4/29 (+5)
県南部(果樹試験場)	4/11 (+1)	4/24 (+5)

【 問い合わせ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-860-3421
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
天王分場班	TEL	018-878-2251
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
掲載HP	http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	